

外国語教育研究所所長挨拶

「地域と世界をつなぐ架け橋として」 外国語教育研究所 所長 塩澤寛樹

日頃より外国語教育研究所の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。当研究所ではこれまで、「留学支援」「人材育成」「地域貢献」を柱に、さまざまな取り組みを展開してまいりました。具体的には、本学学生への留学相談や独自の留学支援プログラムの実施、県内高校生を対象としたグローバル人材育成の場「明石塾」、研究員による高等学校・小学校への英語授業支援、そして地域の皆さまとの交流を促進する英会話サロン「グローバルカフェ」などの活動を積み重ねてまいりました。

急速に変化しつつある社会において、今後、当研究所の役割もさらに増してゆくことと考えております。地域と世界をつなぐ架け橋として、研究所もさらなる進化を目指してまいります。今後とも、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



2025年度 明石塾活動報告(7月~9月) 第24期生の活動が始まりました



7月26日(土)に入塾式が行われ、男子4名、女子18名の計22名(学校数15校)の活動がスタートしました。7か月間にわたり、塾生たちは県立女子大学の教授陣による講義や、外国語教育研究所研究員による英語研修、県内・県外フィールドワークや東南アジア海外研修を通して、発言力や行動力を身に付け、国際的な視野を養っていきます。

日付	曜日	午前研修 (10:00~12:30)	午後研修・講義 (13:30~16:00)
7月26日	土		(13:00) 入塾式 (13:40) 塾長・事務局長との懇談会
7月30日	水	英語研修① David Sakai研究員/Dermot McSweeney研究員 Class building / Get to know you activity	[大学講義①] 国際コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション課程 神谷 信廣先生 「英語の勉強は早く始めた方が良いのか~年齢と第二言語習得の関係~」
7月31日	木	Introduction (金岡副所長・池田主幹) 海外研修について(JTB)	[大学講義②] 文学部文化情報学科 尹 鈺喜先生 「地域」と「国際」の関係を知る~「日本人」と「外国人」とは何か~
8月1日	金	英語研修② Milena Kanna研究員 Non-verbal Communication	[大学講義③] 国際コミュニケーション学部 グローバル社会システム課程 于 蘭鳳先生 「世界に挑む日本企業-アジアを中心にみてみよう-」
8月4日	月	英語研修③ Mark Yoshida研究員 Appearance and Stereotypes	[大学講義④] 群馬学センター 築瀬 大輔先生 「もうひとつの戦争体験-平和は戦国人が教えてくれる-」
8月5日	火	英語研修④ David Sakai研究員 Cultural drift and Migration	[大学講義⑤] 文学部英米文化学科 笠井 俊和先生 「大学での学びとは——海賊をめぐる歴史研究を例に」
8月6日	水	英語研修⑤ Dermot McSweeney 研究員 Japanese Identity	[大学講義⑥] 文学部美学美術史学科 浦木 賢治先生 「社会や文化がかわる時—明治美術、そして現代」
8月21日	木	県内フィールドワーク (サンデン株式会社)	
8月30日	土	県内フィールドワークのまとめ	・大学講義のまとめ ・明石先生著書講読①
9月6日	土	英語研修⑥ Timothy Witherow主任研究員 Population Decline	・明石先生著書講読② ・海外研修参加希望者事前説明会(JTB)
9月20日	土	英語研修⑦ Harry Meyer研究員 Japan's aging society and immigration	塩澤寛樹塾長講義

入塾式及び塾長・事務局長との懇談会(7月26日)

式辞(一部抜粋) 塩澤寛樹塾長

「大学講義では、本学文学部と国際コミュニケーション学部両学部の先生方が、学問への入り口となるお話をしてくれます。英語研修や海外研修を含むすべての活動を通して、経験値、思考、発想、感覚を身に付け、将来に活かしてください。皆さんがよい経験と楽しい思い出を得られることを期待しています。」

入塾生代表挨拶(一部抜粋) 一條可愛さん(高崎商科大学附属高校3年)

「英語研修や大学での講義、フィールドワークや海外研修を重ねていく中で、英語力を中心に自分の意見を持ち、発信する力、そして行動する力を養い、仲間たちと協力して問題解決へと向かう力を培うことを目指していきます。」

明石塾24期生入塾式



塩澤寛樹塾長式辞



塾生代表挨拶



入塾式の様子

Foreign Language Research Institute Newsletter vol.47

入塾式後、塾長と事務局長との懇談会が行われました。まずは参加者全員が自己紹介を行いました。初めて顔を合わせる場で、緊張しながらも、それぞれの学校生活や明石塾への意気込み、将来の夢を語りました。最後に、塾長と事務局長が、自らの高校時代をふり振り返りながら、塾生に激励の言葉を贈りました。

【塾生 A】 英語コミュニケーション能力を鍛えつつ、さまざまな知識を吸収し自分の視野を広げることで、将来自分が何をしたいのか見定められるよう、積極的に取り組みたいです。

【塾生 B】 化粧品が大好きなので、将来は国際的な舞台で、化粧品開発担当者として活躍したいと考えています。

【塩澤塾長】 私の高校時代は、英語を読めて聞ければいい時代でした。現在は4技能が求められていますので、明石塾で英語力を伸ばしてください。ただ、英語はスキルであり、手段なので、英語を使って何をやるかということも合わせて考えてください。

【安達事務局長】 英語力はもちろんのこと、それを活用するための幅広い能力が必要になります。そのために明石塾を十分に活用してください。明石塾をきっかけに様々な場で活躍してほしいと思います。



懇談風景

本学教授陣による大学講義（7月30日～8月6日）

夏季研修では、本学教授陣の専門分野に関する講義を6日連続で受講しました。塾生は普段あまり触れることのない専門性の高い内容に難しさを感じつつも、新しいことを知るおもしろさ、考えることの楽しさを見い出していました。積極的に質問する塾生に対し、先生方が丁寧に答えてくださいました。自身の考えや視野を広げ、グローバルな人材に一歩近づける講義となりました。



「英語の勉強は早く始めた方が良いのか
～年齢と第二言語習得の関係～」
国際コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション課程
神谷 信廣先生



「[地域]と[国際]の関係を知る
—「日本人」と「外国人」とは何か—」
文学部文化情報学科 尹 鈺喜先生



「世界に挑む日本企業
—アジアを中心に見てみよう—」
国際コミュニケーション学部
グローバル社会システム課程
于 蘭鳳先生



「もうひとつの戦争体験
—平和は戦国人が教えてくれる—」
群馬学センター 築瀬 大輔先生



「大学での学びとは
——海賊をめぐる歴史研究を例に」
文学部英米文化学科 笠井 俊和先生



「社会や文化がかわる時
—明治美術、そして現代」
文学部美学美術史学科 浦木 賢治先生

【塾生の「気づき」や「学び」】*「ふり振り返りシート」から一部抜粋

- ・「英語ができて伝える内容がある人」が国際社会で活躍できるのではなく、「伝える価値のある内容」と「それを伝える手段としての語学力」の両方がそろって、はじめて活躍できるということに驚きました。
- ・二重国籍が抱える課題や、日本の制度との関係性についても初めて知ることが多く、グローバル化が進む中で今後ますます重要なテーマになるのではないかと感じました。
- ・アジア市場に多く企業が進出していて、今後は新興国に多く進出するということ。ヤクルトのように工夫して海外で販売をし、失業者や女性などを雇ったりする経営展開がとてもおもしろいと感じた。
- ・戦争の仕方は今も昔も変わっていないのだということに気付きました。敵味方関係なく弱い立場を集中的に狙うということです。しかしこの決断を下した当主だけが悪いのではなく、それを支持し続けた民衆もまた、戦争に加担しているということを知りとても納得しました。
- ・海賊というマイナーな分野について調べることもできるということに大学の凄さを感じました。また、今まで考えることのない海賊についてよく学ぶことができました。一つの分野について極めることができる大学での学びにとっても興味が湧く講義でした。
- ・時に論争になったり、法令を変えるまでに至ったりと美術というものが今も昔も社会の中で大きな役割を果たしてきたという事実に感心しました。人の手が加わることで、守られてきた、守り続けてきた文化財の価値の高さを改めて感じました。一度美術館に行って実物からそれらの歴史を感じたいです。
- ・大学講義では、幅広いテーマを扱ってくださり、自分の興味や視野が大きく広がりました。特に印象的だったのは、自分がこれまで当然だと思っていた価値観や知識が、実は一面的なものでしかなかったことに気付かされたことです。

研究員による英語研修 (7月30日～)

研究員による英語研修では、文化、コミュニケーション、国際問題等をテーマにした英語講義を受け、塾生同士で議論したり、プレゼンテーションを行ったりします。研修はすべて英語で行われ、塾生が世界の舞台で活躍するために必要なコミュニケーション力や歴史的、文化的知識を身に付けていきます。



Timothy Witherow 主任研究員



Mark Yoshida 研究員



Dermot McSweeney 研究員



Milena Kanna 研究員



David Sakai 研究員



Harry Meyer 研究員



英語研修の様子



県内フィールドワーク (サンデン株式会社) (8月21日)

昨年度に続き、今年度もサンデン株式会社を訪問し、新たな製品や製品の品質向上のための研究所が置かれているサンデングローバルセンター (SGCT) にてフィールドワークを行いました。会社概要や主力製品、SGCTについての説明を聞いたあと、館内の見学、「グローバルに働くために大切なこと」というテーマの講話、グローバルに活躍する社員の方々とのグループ形式での交流を行いました。

塾生は、新たな技術開発を進め、世界で活躍する企業が県内にあるということに感心していました。また社員の方々のお話に刺激を受け、今後の学習へのモチベーションを高める機会となりました。



SGCT についての説明を聞く様子



社員の方との交流



フィールドワーク終了後の記念撮影

高等学校連携英語授業 高校生の英語力向上を支援します

高等学校とも積極的に連携を図っています。指導経験豊富な研究員が英語のみで授業を行っています。今年度前期は、高崎経済大学附属高校、高崎商業高校で実施しました。高校生たちは、環境問題やコミュニケーション、文化やアイデンティティをテーマに、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を行いました。はじめは緊張した様子も見られましたが、研究員の親身な指導により、意欲的に活動に取り組み、積極的に英語を使おうとする様子が見られました。



高崎経済大学附属高校



高崎商業高校



企業英語研修 ビジネスの現場で活かせる英語を身に付けます

企業との連携を通して地域社会に貢献するため、研究員による英語研修を行っています。4月8日(火)には、サンデン株式会社の新入社員研修において、英語研修を実施しました。自己紹介や相手紹介の活動が始まると、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとり始め、会場が活気にあふれました。職場での役職名や役職に応じた依頼表現を学ぶ場面では、チーム戦で楽しみながら身に付けていく様子が見られました。



留学支援 長期留学16名、夏季短期研修20名が海外へ



奨励金の支給や留学情報の提供、各種説明会や諸手続についての相談などを随時行い、留学を希望する県女生を全力でバックアップしています。

【前期出発長期留学】

	国名	大学名	期間	人数
1	アイルランド	ダブリンシティ大学	1年	1
2	カナダ	トンブソン・リバーズ大学	1年	1
3			6ヶ月	1
4	韓国	高麗大(交換留学)	1年	2

【夏季短期研修】

	国名	研修種別	研修先	期間	人数
1	アメリカ合衆国	語学	インディアナ大学インディアナポリス校	4週間	1
2		ボランティア	サンフランシスコのフードバンク・教会 (低所得者支援)	3週間	1
3	インドネシア	ボランティア	バリ島の小中学校(英語授業支援)	4週間	1
4	オーストラリア	インターン	シドニーの日系・豪州系企業	3週間	4
5	カナダ	語学	グローバルレジャイングリッシュセンター	4週間	1
6			ハートランド インターナショナル イングリッシュ スクール	4週間	4
7				7週間	1
8	フィリピン	インターン	プリティッシュコロンビア大学	3週間	1
9	ブルガリア	ボランティア	タランパンの公立小学校(副担任)	3週間	2
10	ブルガリア	ボランティア	アゴラソフィア日本語学校(日本語授業支援)	2週間	3
11	ベトナム	インターン	ホーチミンの日本語語学学校 (日本語教師アシスタント)	6週間	1

【後期出発長期留学】

	国名	大学名	期間	人数
1	オーストラリア	ウエスタンシドニー大学	1年	1
2	カナダ	DEA カナディアンカレッジ	6ヶ月	1
3		セルカーウカレッジ	1年	1
4		トンブソン・リバーズ大学	6ヶ月	6
5	フィリピン	デ・ラサール大学(交換留学)	6ヶ月	1
6	マレーシア	マラヤ大学(交換留学)	6ヶ月	1

群馬県親善学生大使委嘱状交付式(7月11日)

留学支援プログラムを利用して海外留学を行う学生は、群馬県の親善大使を委嘱されます。7月11日(金)に委嘱状交付式を実施し、30名の学生が委嘱されました。塩澤寛樹学長、安達明事務局長、野口和彦国際交流委員長から、「群馬県の留学生という立場をぜひ忘れないでください。成果をもって、また元気に帰ってきてください。」「異文化交流を通じて、今後のヒントとなるものをひとつでも見つけてきてください。」「健康に十分に気をつけ、危険を回避したうえで、ぜひ楽しんでください。」と激励の言葉をいただきました。

9月からフィリピンのデ・ラサール大学で交換留学生として学ぶ星野ルビジェンさん(国際コミュニケーション学部3年)が「群馬のよさを伝え、留学先の人々に群馬を訪れたいと思ってもらえるようにしたい」と思います。」と大使としての決意を表明しました。



ブルガリア研修
(アゴラソフィア日本語学校のみなさんと)



群馬県親善学生大使委嘱状交付



学生大使代表挨拶



塩澤学長より激励の言葉

English Help Desk 英語学習でお悩みの県女生をサポートしています!

English Help Deskでは、研究員が本学学生を直接指導し、学生の英語力向上を支援しています。学部学科を問わず利用可能で、各学生の要望に合わせた指導を行っています。今期は、長期留学や短期研修に向けた英会話指導、検定試験のライティング添削や面接練習、提出課題の支援、留学相談を目的として、多くの県女生が利用しました。今後も研究所の人的資源を最大限活用し、学生達の英語に関する課題解決を支援してまいります。



グローバルカフェ 県民の皆様国際交流の機会を提供しています

研究員と気軽に英会話を楽しむことができる「グローバルカフェ」を年間3期実施します。5月から7月に行われた第I期には、県女生を含む約40名の幅広い年齢層の方にご参加いただき、大変好評でした。第II期を10月から12月、第III期を1月から2月に実施する予定です。

【第I期参加者の感想】

- ・様々な年代の方と交流しながら、英語を使う機会を増やすことができたので、また参加したいです。
- ・ネイティブの先生だけでなく、日本人の方と英語で話す機会にはないので、大変満足しています。
- ・いろいろな人の話を聞けるだけでもとても有意義な時間が過ごせます。
- ・英語を勉強している方といろいろな情報交換ができるので、大変満足しています。



(転出)

職名	氏名	新所属(職名)
副所長	江原 悠一	渋川工業高等学校定時制(教頭)
主事	井野 佑紀	健康福祉部障害政策課(主事)

(転入)

職名	氏名	旧所属等(職名)
副所長	金岡いずみ	主幹(総括)
主幹(総括)	池田香保里	前橋商業高等学校(教諭)
主事	吉田 優奈	産業経済部地域企業支援課(主事)

令和6年度末
人事異動

